



基本理念
 私達は、医療に携わる人間として、情熱と誇りと博愛の心を持ち、意欲ある医療活動を展開していきます。
 独立行政法人
 国立病院機構高知病院

編集 独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会 / 代表 大串文隆 / 住所 高知市朝倉西町1丁目2番25号 / 電話 088-844-3111 / FAX 088-843-6385

呼吸器センター 開設に向けて



NHO高知病院 院長
大串 文隆

高知病院も開院して10年が過ぎ、新しい目標に向かって再出発すべき時期となりました。地域に信頼される病院になることを大きな目標としてきましたが、同時に特徴ある病院を作り上げていくことも重要なことと思います。高齢化を迎え、肺癌、慢性閉塞性肺疾患（肺気腫、慢性気管支炎）、間質性肺炎などのびまん性肺疾患、喘息、肺炎・肺結核などの感染症を含む呼吸器疾患への対応は臨床現場での重要な課題となっています。しかし、一方では地方における呼吸器専門医の不足も社会的問題となっており専門医を育成していくことも呼吸器学会認定研修施設としての大きな役割の一つです。高知病院に呼吸器科、呼吸器外科が設置されたのは平成12年10月の開院時で、ゼロからの出発でしたが、コメディカルを含めたスタッフ全員の努力により多くの専門医も育ち現在では県内有数の呼吸器疾患を取り扱う施設として認知されるまでになってまいりました。良質の医療を提供するためには内科系、外科系の連携をより円滑に行い呼吸器疾患で悩む患者さんに内科・外科の枠を越えて切れ目のない医療を提供することが最も重要であり、これをより効率的に遂行するため、本年8月1日より呼吸器センターを開設することと致しました。センター化することにより、内科外科の垣根がなくなり、内科的に診断が困難で外科的手技を必要とする疾患などへの対応を迅速に行うことができますし、また、呼吸器内科・外科に放射線科や病理診断科を加えたカンファレンスの開催が容易となり

診断や治療を多方面から検討することが可能となります。さらに、リハビリテーション科、薬剤科などコメディカルとの交流も深めることができ、呼吸器リハビリテーション、吸入指導などの効果を総合的に判断できるようになり、呼吸器センターを中心とした他部門参加型の呼吸器疾患診療を行うことで、よりよい医療が実践できると思います。特に肺癌は呼吸器悪性疾患のなかで最も重要な疾患で内科・外科・放射線科に加え、リハビリテーション、薬剤科などのコメディカルの全ての職種が包括的に対応することにより良好な成績が得られるものとされています。高知病院はがん診療連携推進病院にも指定され高精度の診断機器を有し、放射線治療装置も設置しており手術、化学療法、放射線療法とそれぞれの治療法を施行することが可能であり患者さんに最良の治療を選択できる施設の一つです。各診療部門から多面的に検討することで今まで以上に患者さんにとってよりよい診療体系が構築されるものと思っています。このような臨床実績を一つ一つ積みあげていくことにより高知病院に勤務する若い医師が多くのかを経験を専門医へと成長していくことが期待され専門医不足解消にもつながるのではないかと思います。呼吸器センターを立ち上げることで、呼吸器疾患に対する診断・治療をより向上させ地域の医療に貢献したいと思っていますので、関係の皆様には今後ともご支援の程宜しくお願い致します。

新医師紹介



麻酔科医師 廣瀬 佳代

7月1日より当院で勤務させていただいている廣瀬佳代です。出身は徳島大学で、卒後臨床研修は徳島の鳴門病院で行いました。その後は徳島大学で大学院生と医員として研修してきました。徳島県外に出るのは初めてなのですが、2年ほど前に非常勤で当院に勤務させていただいていたこともあり、見知った顔も多く、楽しく勤務しています。

高知は、魚とお酒がおいしいので、新鮮な魚をたくさん食べたいと思います。また、大河ドラマで再ブレイクした龍馬の故郷であり、たくさん名所旧跡があるようですので、それらも見てまわりたいと思っています。

まだまだ若輩で、ご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、諸先生方の力をお借りしながら、がんばっていききたいと思います。よろしくお願いいたします。



呼吸器科医師 飛梅 亮

7月1日より当院に勤務させていただいております飛梅 亮(とびうめ まこと)です。沖縄南部医療センター・こども医療センターで初期研修を終えたのち、徳島大学呼吸器膠原病内科に入局し大学病院にて2年半在籍していました。高知県は、今回が初めてですべてが新鮮です。赴任時、もっとも戸惑ったのは路面電車の存在です。現在も交通ルールがよくわからない道があり刺激的な毎日となっております。早く慣れる事ができる様に、毎日ドライブを楽しませていただいております。

臨床に関しては、大学では肺癌を中心に診療をしていました。抗癌剤治療、緩和ケア医療を引き続き行いつつ、今後は呼吸器内科一般を中心に診療に励みたいと考えております。

可能な限りフットワーク軽く診療が行える様子を気をつけております。これからも頑張っていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

診療科紹介

外科



外科医長 福山 充俊

当院外科は、消化器外科を中心に乳腺、その他一般外科を対象に診療しています。消化器外科は、消化管(食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛門)および肝・胆・膵(肝臓、胆嚢、胆道、膵臓)の悪性疾患(消化器がん)と良性疾患(潰瘍、腹膜炎、胆石など)に対して手術を中心とした外科的治療を行っています。乳腺外科は、マンモグラフィーやMRIなどによる検診から精密検査、乳がんに対する手術および手術後の補助療法を行っています。また一般外科としてソケイヘルニアや甲状腺疾患、外傷など広く外科的治療を必要とする疾患を対象としています。

また腹部救急にも力をいれており、急性虫垂炎や消化管穿孔、ソケイヘルニア嵌頓など、救急疾患も昼夜を問わず積極的に受け入れています。

さらには、手術が困難な進行癌に対しては、最新の抗癌剤治療を取り入れています。特に入院することなく外来通院による治療が増加しています。また病状の進行に合わせた緩和医療にも積極的に取り組んでいます。

最近の傾向としては腹腔鏡による手術が増えてきています。従来の胆石症以外に、ソケイヘルニアや脾臓摘出術などの良性疾患に対し、腹腔鏡手術を行っています。さらに胃癌や大腸癌においても腹腔鏡手術がどんどん増えてきており良好な成績が得られています。

この4月より大幅にメンバーが替わりましたが、今まで以上に地域医療にさらに貢献できるよう頑張りますので、どうかよろしくお願いいたします。

泌尿器科

夏の結石、冬の頻尿



泌尿器科医長 渡邊 裕修

暑い夏が始まり、今年も尿路結石の患者さんが増える季節となりました。毎年、6月から9月ぐらいの間は毎晩のように救急外来に尿管結石の痛みで受診される方がいらっしゃいます。これは暑い時期には発汗量が増えて尿量が減少し、尿が濃くなって結石が出来やすくなるためと考えられています。したがって尿路結石を作らないようにするには、十分な水分を摂ることが大事ですし、不幸にも既に結石が出来てしまった方にとっても痛みの予防のため水分を摂ることが治療の一つとなります。結石のサイズが大きくて自然排石が難しいと考えられる場合（通常、

長径が1 cm以上の結石）は、体外衝撃波による破砕治療や内視鏡的な結石除去を行っています。

逆に気温が下がって尿量が増える季節になりますと、当然、排尿の回数も増えてきます。冬場に泌尿器科を受診される方でもっとも多い症状は頻尿、特に夜間頻尿です。もちろん若い方であればいくら尿量が増えても深夜就眠中にトイレに起きることはありませんから、夜間頻尿には尿量だけではなく膀胱機能や膀胱容量の問題がその背景にあるわけです。そこでいろいろな検査をして膀胱の働きに異常がないかどうか調べて、適切な水分摂取の指導、お薬による治療を行っています。

もちろん泌尿器科で診ている病気は結石や頻尿だけではありませんが、尿量に関係してる二つの病気について簡単に説明しました。尿の色や排尿回数、排尿時の痛みや残尿感など気になることがありましたら、是非、泌尿器科にご相談ください。

耳鼻咽喉科



耳鼻咽喉科医長 関根 和教

耳鼻咽喉科は首から上の眼と脳を除く部位の疾患を扱っています。その名のとおり耳・鼻・のど以外にも、めまい、顔面神経、頭頸部の腫瘍・癌、嚥下（飲み込み）なども当科の担当となります。

蘆聴覚：聴力を取り戻す、音のある生活を

慢性中耳炎に対する聴力改善手術の成績は昔に比べて向上し、低侵襲の短期入院手術も導入しています。

蘆平衡覚：めまいの原因を探る、めまいを治す

めまいを訴える患者さんは非常に多く、めまいは最も頻度の高い主訴の1つです。しかし、めまいを正しく診断して治療できる医師は、多くはありません。また、保存的治療だけでなく、めまいに対する理学療法も積極的に行っています。

蘆鼻・アレルギー外来：アレルギーを治す

アレルギー性鼻炎は増加の一途をたどっています。

アレルギー性鼻炎の治療は内服薬や点鼻薬による治療が第一選択となります。アレルギー性鼻炎の手術療法としてはレーザー手術が一般的になってきました。当科では、さらにくしゃみ、鼻水、鼻閉の全てを改善する内視鏡下後鼻神経切断術も可能です。

蘆頭頸部腫瘍：頭頸部癌を発見する

頭頸部の良性・悪性腫瘍は、耳鼻咽喉科・頭頸部外科が扱っています。ファイバー等による検査にて腫瘍を発見し、組織検査にて診断を行います。悪性腫瘍の場合はPET検査等により転移の有無を確認し治療方針を立てます。

蘆嚥下機能を評価する

摂食・嚥下障害：日常当然のように繰り返される嚥下は、神経や筋が精巧に機能することによって整然と行われています。この合理的なシステムのいずれかが障害されると、摂食・嚥下障害が引き起こされます。この障害は食べる楽しみが奪われるといった生活の質に影響する問題であり、さらに窒息、誤嚥性肺炎、脱水、低栄養など生命を脅かす問題ともなります。当科では内視鏡による嚥下評価を行っています。

マンモグラフィ検診施設画像認定 A評価を取得しました



診療放射線技師 森安 由圭

わが国の乳がん罹患率は年々増加の一途をたどっており、現在では30人に1人が乳がんになると言われています。早期発見にはマンモグラフィ検診が必要不可欠で、検査において重要なことは、精度管理された装置であること、放射線技師の撮影技術や医師の読影力が高いことなどが要求されます。

当院では、平成22年3月に最新式フラットパネル型デジタルマンモグラフィ装置（富士フィルムメディカル社製アミュレット）を導入し、マンモグラフィ検診を始めました。今回、平成23年6月1日付けでNPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会（精中委）が行っているマンモグラフィ検診施設画像評価Aを取得しました。これは、検診精度向上を目的に行っている審査で、各施設から提出された乳腺含有率が異なる3種のマンモグラフィについて、線量評価や画像評価など総合判定によりA・B・C・Dの4段階で評価されます。線量評価では、定められた線量で撮影ができているかを判定し、また画像評価においては、適正なポジ

ショニングができているか、フィルムにほこりやキズがなく適正な濃度であるかなど、細かく点数化されており、総合判定の結果、B評価以上が合格とされます。今回取得したA評価は、『マンモグラフィ検診施設として申し分ない』と認められた施設に与えられるもので、当院の検診に対する取り組みを高く評価していただいたということであり、検診スタッフの一員として大変励みになります。

精中委では、施設画像評価だけでなく、撮影技師、読影医師に対して定期的な講習会や認定試験を開催するなど、高い検診レベルを維持するための取り組みも行っております。当院では認定試験に合格した医師3名、技師3名が乳腺外来、乳がん検診を担当しておりますので、安心して検査を受けていただくことができます。

これからもみなさまに質の高い医療が提供できるよう、さらなる技術向上を目指してマンモグラフィ検診に従事していきたいと思っております。



臨床検査精度保証施設認証 を取得



臨床検査技師長 向井 伸治

近年、医療機関では医療の質の向上を目指し日本医療機能評価機構や国際標準化機構（ISO）などの外部評価を受ける施設が多くなってきています。

当院臨床検査科は、平成23年度より創設された社団法人日本臨床衛生検査技師会の臨床検査精度保証施設として認定されました。この認証制度は、全国の臨床検査データの標準化を図る目的で行われており、全国で364施設、高知県内6施設

が認定されています。これは当院の臨床検査データが標準化され、且つ精度が保証され信頼性が極めて高いことを意味しております。また当検査科は、社団法人日本臨床衛生検査技師会より高知大学附属病院・高知赤十字病院と共に高知県内の臨床検査データ標準化3基幹施設のひとつに指定されています。

これからも認定施設として、またデータ標準化基幹病院として正確な臨床検査データの提供に努めてまいります。

第3回健康フェスタを開催して

副看護部長 矢野いづみ



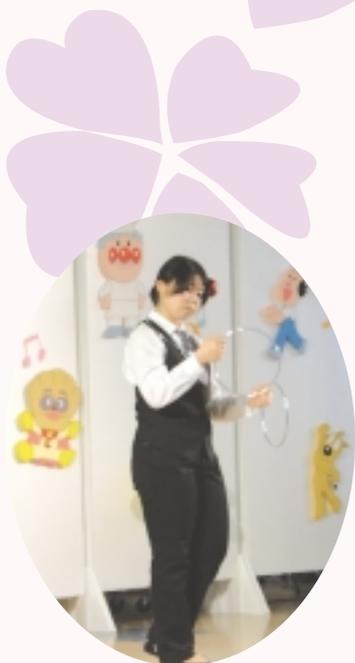
平成23年5月28日に第3回健康フェスタが開催されました。今年はいいにくの雨にもかかわらず800人あまりの方に参加していただきました。今年度のテーマは、『病院と地域でつながろう!!みんなの健康』で、高知病院が地域の皆様の健康を支援したい、貢献したいという思いが反映できるよう職員一同で考えました。

開会式は、若草幼稚園の園児のかわいい合唱、よさこいチームの「ほにや」の躍動感あふれるパフォーマンスで始まりました。イベントは、各職種の特徴を活かし、楽しく、健康に貢献できるものと考えました。医師は、「みんなで知ろう。健康のこと」をテーマに、「肺の健康」「胃腸の健康」「腎臓の健康」「骨の健康」「目の健康」についての講演を行いました。地域の方からの質問もあり、活発な討論会となりました。また、災害拠点病院として、DMATの隊員から災害拠点病院としての活動、高知県の津波被害想定図の説明を行いました。放射線科は、東日本大震災で問題になっている放射能の説明がありました。薬剤科は、お菓子で調剤体験ができるコーナーを作り、長蛇の列ができるほどの人気でした。また、リハビリは、認知機能や作業療法の体験コーナーで、楽しんで体験していただきました。検査コーナーは、顕微鏡で、赤血球や白血球をみることができ、普段見られないミクロの世界に驚いていました。また、肺年齢、血管年齢、骨密度測定があり自分の体を知る機会になっていました。高校生対象の手術

室体験コーナーでは、ガウンテクニックや手術器具を用いての体験をし、将来医師や看護師を目指す高校生の動機付けになりました。キッズコーナーでは、保母さんたちが、紙芝居や首飾り作りなどを行い、子供たちが顔を輝かせて作成していました。また、助産師によるベビーマッサージコーナー、看護学生によるアロママッサージ、子供用の白衣に着替えての写真撮影など、どのコーナーもたくさんの方に楽しんでいただけました。また、医療安全が取り組んだ人間の思い込み、目の錯覚を利用しただまし絵の前では、何に見えるかを真剣に観て楽しんでいただけました。また、外部の方々のご協力をいただき、産地直産の野菜や花、手作り品等の販売を行いました。これら各ブースを回ることによってアイスクリンやフランクフルトの景品がもらえるスタンプラリーも人気がありました。健康フェスタ参加者の方からは、「先生方の講演が勉強になった。役だった」「とても楽しかった。」「骨密度、認知症検査など無料で専門職の方にさせていただいて嬉しかった。」等の意見をいただきました。

今回、地域の方々と健康や医療について考える機会になり、また、病院スタッフが一丸となり、取り組むことで大きな力となることを経験できました。今後も地域に選ばれる病院になるために地域の皆様に喜んでもらえるように取り組んでいきたいと思えます。





地域医療連携室だより

医療相談員紹介・地域連携フォーラム

地域医療連携室 看護師 江口 静香



この度、6階南病棟より地域医療連携室に異動になりました、江口静香です。

今回の異動に際しまして、退院調整看護師養成研修に参加させて頂いている最中です。6月の講義研修を終え、現在は在宅への症例担当や他施設の見学実習を行うべく、実習にとりかかっています。研修は12月の実習発表をもちまして終了の予定です。

研修と並行して、指導を受けながら日々の業務にとりかかっています。また、地域医療連携室では退院支援だけでなく、地域医療機関との連携も行っています。その一つに、地域医療連携フォーラムがあります。毎月1回、地域の医療機関の方々をお招きし、その時々タイムリーなものや当院より地域医療機関へ向けて発信したいものなどをテーマとし行っています。

先月行われた第65回フォーラムでは人工呼吸器についてご講義いただき、院内参加者72名、院外参加

者26名。第64回フォーラムでは、腹腔鏡下手術及びがん地域連携パスの導入について、院内参加者59名、院外参加者17名。第63回フォーラムでは、東日本大震災救護班活動報告について、院内参加者154名、院外参加者38名の方々に参加していただきました。フォーラムを開催するにあたり、講師の方の選定及び打診そして、地域医療機関（全200ヶ所以上）に案内状を郵送し、出欠席の有無を集計するなど、業務内容は多岐にわたります。

フォーラムや前方支援など、様々な業務に携わっている中で、病棟勤務時では知り得なかった内容もあり、退院支援に関しては考え方に少しズレがあると感じました。そのズレを少しでも埋めることができるよう各病棟の退院調整看護師を窓口に、病院全体で地域医療連携が円滑に行えるよう退院支援に関わっていきたいと思います

がん相談窓口を開設いたしました

地域医療連携室 主任相談員
副看護師長 長浦 英世



当院は平成23年度、高知県指定のがん診療連携推進病院となりました。高知市西部エリア、吾川、高幡地区を含め広域のがん診療の拠点として機能する役割があります。

私は去る平成23年5月17日～20日にかけて、国立がん研究センター主催の「相談支援センター相談員基礎研修会」に参加いたしました。

国民の2人に一人はがんに罹患するといわれている昨今、平成18年がん対策基本法が制定され、二次医療圏に本研修を終了した者が1名以上配置された相談支援センターを概ね1ヶ所以上整備することとしており、当院も本年度より、「がん相談窓口」を開設いたしました。

がん相談窓口では主に下記の相談に対応いたします。

ア．がんの診療及びがんの予防・早期発見などに関する情報提供

イ．地域の医療機関、医療従事者に関する情報の収集、提供

ウ．セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介

エ．がん患者の療養上の相談

オ．地域の医療機関、医療従事者等におけるがん医療の連携協力

カ．体制の事例に関する情報収集、提供

キ．アスベストによる肺がん及び中皮腫に関する医療相談

ク．ATLに関する医療相談

（平成23年3月29日追加項目）

ケ．その他相談支援

ご相談はまず、お電話でお申込下さい。相談料は無料で、1回のご相談時間は30分を予定いたします。

窓口 地域医療連携室直通 専088-828-4465

医療安全管理室

医療安全研修

in 第65回高知病診連携フォーラム



医療安全管理係長 森山 万智

恒例となりました医療安全研修、今回は、「人工呼吸器療法を学ぶ」をテーマに6月29日（水）に開催いたしました。講師としては、畠山呼吸器科医長、宮B副看護師長、林主任臨床工学技士といった面々の院内職員が務め、院外からは地域病院職員26名（医師、臨床工学技士、看護師等）、院内職員72名といった多数の参加を得ることができました。

研修内容としては、人工呼吸器装着事例を紹介しながら経過の中で呼吸器科医師がどのように判断し治療をすすめたのか理解できる、事故防止の為に人

工呼吸器の管理で必要な留意点を知ることができる、人工呼吸器のモード設定の意味を理解できる、装着中の患者の二次合併症を予防するためのケアを理解できるといった目標のもと、画像や写真、人工呼吸器（エピタ）を使って実施しました。

研修後には地域病院職員の方々からの積極的な質問をいただく場面もあり、院内外双方の病院職員にとって実りある情報交換の場にもすることもできました。今年度の研修では、さらに「医療メデイエーション」「医療訴訟についてPart4」等も計画しております。今後も地域医療機関全体で医療安全文化を高められるような役割を果たし取り組んでいきたいと考えております。



東北大震災の医療班に参加して



看護師 井上 直子

4月18日から22日までの5日間、私達は宮城県東松島市にある避難所の巡回診療の医療班として参加しました。巡回診療に参加したことで感じたことは、限られた資源を限られた場所や時間の中で有効的に活用するためには、現地で避難生活を送られている被災した方々、避難所生活を取りまとめる代表者の方の協力なしには活動を遂行することはできなかったということです。震災が発生してから一ヶ月が経ち、避難所で生活される方も少しずつ減少され地域の診療所も活動を再開しつつあります。急性期を過ぎた今、求められるのは慢性疾患に対する医療の継続と合併症の予防だと感じました。しかしながら、これら医療の継続と並行して復旧活動や精神的ケアを限られた支援の

中で同時に行っていくことの難しさも実感しました。今後は災害医療班も巡回診療から地域で生活する被災者宅を訪れる訪問診療に移行していくことにはなりますが、未だ避難所生活を送られている方々が抱える問題は多くあります。そんな時、東松島地区被災者について誰よりも多くの情報を持っている保健師と共に連携した医療を行っていくということは、一人一人の抱える問題に向き合い解決していくためにとても重要な役割を担っていることだと感じました。被災者が必要とする医療を継続して地域の医療施設で受けられるように体制を整えていくことが今後の災害医療活動の課題であると感じました。



緩和ケア認定看護師資格を取得して



副看護師長 緩和ケア認定看護師 佐々木牧子

私が緩和ケア認定看護師を志したのは、がん患者様の身体的・精神的な苦しみに対してもっと専門的な知識と技術を持ってケアを提供したい、共に悩んでいる看護師たちを支援したいと考えたからです。仕事と家庭と勉学に大変なこともありましたが、上司や同僚たちの応援と助けがあり、平成23年度緩和ケア認定看護師資格を取得することができました。

「緩和ケア」とは、がんなどの治癒が困難な疾患による苦痛を和らげ、患者様とご家族のQOL（生活の質、生命の質）を維持向上することを目的としています。緩和ケアは、治療がで



きなくなった最後のケアではなく、がんの診断や治療と並行して行われるものです。例えば、痛みが強かったり、不安や気分の落ち込みがひどいままではがんの治療もつらいものになってしまいます。このようなときに、緩和ケアでつらさを緩和しながら、がんの治療を受けることができます。

高知病院は平成20年度に多職種による緩和ケアチームが結成され、入院患者様に限らず外来患者様へのケアも行っています。そして、この度平成23年度高知県がん診療連携推進病院の指定を受け、緩和ケアチームの活動がさらに期待されているところです。高知病院の果たす役割の中で、患者様とご家族の「生きること」を支える看護師を目指していきます。

看護師・助産師募集 合同説明会に参加しました



看護師長 山根 朱美

平成23年5月15日に、香川県高松市の香川国際会議場で、独立行政法人国立病院機構中国四国ブロックの看護師・助産師募集合同説明会に参加しました。当院からは、事務部門、看護部門から7名参加しました。この説明会は、5月から6月に岡山、高松、広島の3会場で開催され、高松会場では中国四国ブロック23病院の内18病院が参加していました。当日は、12:00受付、12:30~13:30まで国家試験対策、13:30~13:45まで国立病院機構の説明、その後各病院の説明会がありました。

まず自病院のブースを準備することから始まりしました。高知病院は参加者の目をひくようにブースに赤と青ののぼりを掲げ、各部署が作成した紹介ポスターを貼りました。他病院も色々工夫されており、椅子までもが目立つようにしてある病院、スタッフ全員が、目立つ蛍光色の上着を着ている病院もありました。合同説明会では、参加者に興味を持って

ただく病院独自の工夫が必要だと改めて感じました。

開催場所が、高松ということもあり、愛媛、香川、岡山、広島県の病院に興味をもつ参加者が多い状況でしたが、遠く静岡から高知病院の説明会に参加して下さった方もおられ感激しました。

説明会では、一度に何人もの説明となり、ブース中央で高知病院についての説明会を実施しましたが、声の届きにくい後方にまで参加して下さり、お待たせしている間に、スタッフが資料を使用して高知病院の良さを伝えるようにしました。この説明会に参加された方と、来年は高知病院で一緒に仕事をすることを楽しみにしております。

次年度の説明会では、高知病院に興味を持っていただくよう、よりいっそう目立つ工夫と、当院の教育システムや新採用者の病棟での成長などを参加されている方にアピールしなくてはと感じた一日でした。



中国・四国ブロック 内呼吸器疾患研修会に参加して

看護師 岡林 啓太



平成23年6月28日から7月1日までの4日間、国立病院機構山口宇部医療センターで開催された中国・四国ブロック内呼吸器疾患研修会に参加させていただきました。この研修は、政策医療ネットワーク推進のため、呼吸器看護の専門的知識・技術を習得し、呼吸器専門領域の看護実践において指導的役割を担う看護師の育成を目的としたものでした。

呼吸器疾患看護に携わる者として、呼吸器疾患の診断に関する処置・検査の看護実践において必要な技術・知識を学び職場での後輩指導に必要な能力を身につける。呼吸療法の基礎を十分に理解し、呼吸管理機器の保守点検などの基本能力を身につける。

病態に応じた、観察のポイント・根拠に基づいた呼吸器疾患のフィジカルアセスメント能力を高める

という自己課題をもって臨みました。

今回の研修では、呼吸器基礎的知識、呼吸器疾患（特に、肺がん、アスベスト肺・中皮腫、結核など）の治療・処置・看護について呼吸器専門の知識・技術・看護のポイントについて詳しく学ぶことができました。普段、看護を実践する機会の少ない呼吸器外科の看護や結核看護についても学ぶことができました。また他施設の方との情報交換など、呼吸器看護全般を学ぶことで得た知識・技術をこれからの呼吸器疾患看護に活かしていきたいと考えています。そして研修での知識・技術を病棟のスタッフに伝達することで、呼吸器看護スタッフとしての専門意識を高めていきたいと考えています。



コメディカル・福祉職 新採用研修に参加して

臨床検査技師 福留江里奈



平成23年5月19日から5月21日までの3日間、中国四国ブロック事務所で行われたコメディカル・福祉職新採用研修に参加させていただきました。研修には約130人の新採用者が参加しており、これは例年より多い人数だったようです。

開講式から始まり、国立病院機構についての説明、待遇・基本マナーの講義を全体で受けました。さらに模擬患者さんとのロールプレイではグループに分



かれ、課題の状況にどう対処すればいいのか皆で考えました。いろいろな意見を出し合い、実際の場面に活かそうと頑張



りました。また各職種に分かれて、講師の方々が現場で役立つ内容を講義してくださり、とても勉強になりました。

この新採用研修で学んだ内容は、いまの私の業務に役立っていますし、また、多くの新採用の方々と交流でき、良い研修になりました。

平成23年度新採用 事務職員研修に参加して



管理課 庶務係 白石 朋子

5月25日から27日の3日間、国立病院機構中国四国ブロック事務所で開催された、平成23年度新採用事務職員研修に参加させていただきました。

この研修は、中国四国ブロック管内の病院で働く新採用事務職員を対象としたもので、これから職員の一員として働くために必要となる、国立病院機構の運営に関する基礎的な知識や、接遇マナー、チーム医療の中での事務職員の役割等を学ぶことができました。

研修では、ただ講義を聴くだけでなく、ロールプレイングや、他の

病院で働く職員の方たちとの討議を通して、あるべき事務職員の姿を検討していきました。

3日間という短い期間でしたが、仕事に対する姿勢や、自分の仕事の役割を考え直す有意義な機会となりました。まだまだ患者さんにも職員の方にも迷惑をかけてばかりですが、今後は、研修で学んだことをしっかり実践に生かし、少しでも病院に貢献できるようにしたいと思います。また、日常の業務の中でも知識を深める努力を怠らないよう心がけていきたいです。



夏場に起きやすい食中毒に 注意しましょう！



感染管理認定看護師 原 昭恵

梅雨もあけ、高知に夏がやってきました。夏場に気をつけないといけないのが食中毒です。食中毒の原因には細菌やウイルスなどがあります。夏場はカンピロバクターやサルモネラなどが原因となる細菌

性食中毒が多く、食品中などで菌が増殖したり、細菌から毒素が発生したりして起こります。食中毒予防の三原則は、食中毒菌を【つけない】【増やさない】【やっつける】です。この三原則からなる食中毒予防の6つのポイント

を以下にご紹介します。

食中毒は飲食店で起こると思われがちですが、家庭でも発生することがあります。家庭では発症人数が少数であることから食中毒とは気付かず重症化することもあります。暑さで食品もいたみがちです。調理前後の手洗い、食品の温度管理に気をつけ、食中毒を予防しましょう。

The infographic is divided into six numbered points:

- point 1 食品の購入** (Food purchase): Buy fresh food, check expiration dates, and store properly.
- point 2 家庭での保存** (Storage at home): Refrigerate below 5°C, freeze below -15°C, and store raw meat separately.
- point 3 下準備** (Preparation): Wash hands, wash produce, and use separate cutting boards for raw meat.
- point 4 調理** (Cooking): Cook thoroughly to 75°C, use a thermometer, and avoid cross-contamination.
- point 5 食事** (Eating): Wash hands, use clean dishes, and avoid eating raw food.
- point 6 残った食品** (Leftover food): Refrigerate leftovers, reheat to 75°C, and discard if over 24 hours old.

参考資料：厚生労働省ホームページ「家庭でできる食中毒予防の6つのポイント」

つくしまつり 開催



保育士
山田美由紀

つくし病棟では、家族の皆様と共に楽しめる行事の一つに『つくしまつり』があります。

今年は幸運な事に天候の心配もなく37回目を迎えることが出来ました。4月6日貉、早々と利用者様達による『つくしまつり実行委員会』が開かれました。その様子を少し紹介したいと思います。話し合いのポイントとしては、模擬店の希望とテーマを決めること、主にこの2点です。自分の意見を持って参加する利用者様、自分の意見を聞かれる嬉しさに眼を輝かせている利用者様達があります。その“ひとこと”“笑顔のサイン”“緊張の中で伝えたいこと”一つ一つが、見逃せない提案です。中には、意気込んで提案したにもかかわらず珍アイデアがみんなの笑いのネタとなって意気消沈してしまう場面もあったり…。

こうした利用者様達の話し合いが、つくしまつりの準備第一歩です。東北震災からまだ一月足らずの生々しい現地の状況がテレビから流れている最中、今年のテーマは昨年の龍馬ブームから一転「みんなでちからをあわせてつながろう」に決まりました。つくし病棟での行事『つくしまつり』は、ささやかな祭りではありますが、つくし病棟の利用者様達からこよなく愛されています。そして、それを機に各部署の職員の方やOBの皆様が、つくし病棟に新風を運んで下さることが何より嬉しいことだと感じています。「こんにちは」「元気やった?」「何を買いしましたか?」と声を掛け合うひとときが大好きな利用者様達です。



附属看護学校

防火訓練

を終えて



2年生

川村 友美

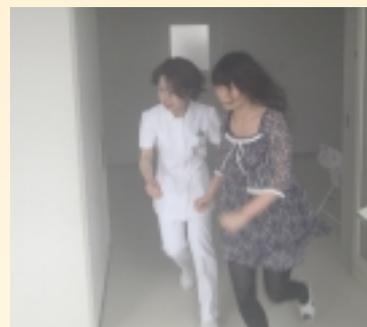


2年生

溝渕 千真

6月2日貅、防火訓練を行いました。今回は、防火訓練があることを事前に知らされていませんでした。そして、いつものように教室や実習室で授業を受けていたところ、突然、火災警報が響きわたりました。しかし、ほとんどの学生は、すばやく避難経路を確保し慌てず落ち着いた行動がとれており、昨年の訓練が活かされていたように感じました。しかし、1年生は、初めてのことで戸惑っていたようでしたが、最初の人々が避難場所に移動するまでに2分5秒、全校生徒の避難には6分40秒（消火活動者を含め）で移動することができました。

寮では、出火場所の周囲が発煙筒の煙で真っ白になっており、周りが全く見えない状態の中避難してきた学生もいました。咳き込んでいる学生もみられとても苦しそうでした。改めて、避難時には口にハンカチを当てるのが大切であり、火事で発生した煙を吸うことでおこる一酸化炭素中毒の予防ができるのだと感じました。



避難が完了してからは、校内にある消火栓、消火器、火災探知機を1～3年合同のチームに分かれて探すという経験をしました。初めてじっくりと探してみると、意外な場所にあったり、火災探知機の種類が多く他のセンサーと区別がつかなくなったり、どれが何なのか知るのに苦労しました。それでも、最後まで全ての火災探知機を探し当てることができませんでした。

そのころ、寮では学生代表者が4階から避難袋を使用して降下訓練をしていました。下から見守る学生からは「怖そう！」など心配する声も聞かれました。初めは恐怖と不安で曇った表情の学生も、無事に地上に

降り立った瞬間、安堵の表情にかわり笑顔もみられていました。

災害は何の前触れもなく突然起こります。平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、大きな被害をともしました。次は、いつ高知で南海大地震が起こるかもしれません。そのためには、災害から自分や家族を守る準備を普段から十分にしておくことが大切です。私たちは、看護学生として今回行った訓練のように慌てず、落ち着いた行動がとれるように、日頃から努めていきたいと思います。



新入生歓迎 体育大会で リフレッシュ!



1年生 岡林 優

2011年4月28日、天王にある高知県立青少年体育館で新入生歓迎体育大会が開催されました。

この行事は、自治会を中心に2年生の体育大会実行委員によって準備から運営まで行われるもので、緊張の日々を過ごしていた私達1年生が、早く学校生活に慣れるようにいろいろな工夫がされていました。中でもグループごとに2年生が手作りで作ってくれたとても素敵な名前入りのワッペンが話題に一時咲かせていました。

ワッペン賞
受賞



新入生歓迎体育大会では、まず1・2・3年生と先生や事務員の方がグループとなり、午前中はバレーボール、午後はケイドロ(おにごっこ)を行いました。バレーボールでは、経験者を中心にチーム一丸となり対決しました。特に印象的だったのは、先生や事務員の方が大活躍(...?)されて、普段と違う一面を見ることができました。入学して新しい環境に緊張しながらの約1ヶ月間でしたが、この新入生歓迎体育大会を通して思いっきり体を動かすことによってリフレッシュできました。

また、昼食時には同じグループの先輩方が、不安に思っていることの解決策や勉強方法のアドバイスをしてくれたり、お菓子を配ってくれたりと学年をこえた交流ができました。普段関わることの少ない先輩や先生といろいろなコミュニケーションがとれ、大変有意義な1日を過ごすことができました。最後に先輩から、看護学生として必要なメモ帳とボールペンのプレゼントをもらい、看護学生として一層勉学に励みたいと感じました。

また、今回は開催してもらった側でしたが、来年は主催者になり新入生にとって良い思い出に残るように頑張りたいと思います。



外来診療担当医表

(平成23年7月25日現在)

■受付時間 8:30~11:00 整形外科・火曜日は 8:30~10:30 です。 ■休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日~1月3日



診療科	区分・診察室番号		月	火	水	木	金
内科	午前	1 診	(岸・板垣)	篠原・岡野	篠原・中野	町田・中野	畠山・飛梅
		特別外来	松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午後	専門外来					
神経内科	不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)						
呼吸器科 アレルギー科	午前	1 診	篠原 勉	大串 文隆 (リウマチ科も診察)	畠山 暢生	大串 文隆	岡野 義夫
		2 診			町田 久典		
	午後	専門外来				禁煙外来 14:00~15:30(予約制)	
消化器科	午前		井上・板垣	友兼 毅	板垣 達三	井上 修志	友兼 毅
循環器科	午前		山崎 隆志	西村 直己		山崎 隆志	
	午後	専門外来				ペースメーカー(第1木曜)	
リウマチ科			松森 昭恵 (糖尿病も診察)	大串 文隆	大串 文隆		松森 昭恵 (糖尿病も診察)
小児科	午前	1 診	小倉 英郎	小倉 英郎	武市 知己	小倉 英郎	武市 知己
		2 診	大石 尚文	井上 和男	玉城 渉	大石 尚文	高橋 芳夫
		3 診	玉城 渉			井上 和男	小倉由紀子
	午後	専門外来	神経・発達障害	アレルギー 特殊予防接種	乳児検診	アレルギー-化学物質過敏症 NICUフォローアップ	神経・発達障害 乳児健診
予防接種		14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	14:30~15:30 (予約制)	
外科	午前	1 診	大塚 敏広	福山 充俊	山崎 誠司	福山 充俊	井川 浩一
		2 診					
	午後	専門外来		福山 充俊 乳腺外来		福山・日野 乳腺外来	
整形外科	午前	1 診	篠原 一仁	兼松 次郎	小林 享	篠原 一仁	田村 竜也
		2 診					
脳神経外科	午前		非常勤		非常勤		非常勤 10:00~
	午後	専門外来					
呼吸器外科	午前			日野 弘之		日野 弘之	
小児外科	午前						
皮膚科	午前		三好 研	三好 研	三好 研	三好 研	三好 研
泌尿器科	午前		渡邊 裕修	笠原高太郎	渡邊(奇数週) 久野(偶数週)	笠原高太郎	渡邊 裕修
産科	午前		潘 原田 裕子	福家 義雄	福家 義雄	小林 文子	菊地真理子
	午後						
婦人科	午前		濱 福家 義雄		小林 文子	原田 裕子	原田 裕子
眼科	午前		澹 戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳鼻咽喉科	午前		関根 和教	関根 和教	関根 和教	関根 和教	関根 和教
リハビリテーション科							
放射線科			小松 幸久	塩田 博文	松岡 葵	塩田 博文	小松 幸久

内科の1診は、月曜日から金曜日まで全て、医師1名担当の交代制となっています。